

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオリティ・オブ・ライフ-LABO支援教室 糸満校		
○保護者評価実施期間	2026年2月16日		2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年2月20日		2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・支援体制・安全管理の安定性	・関係機関・学校・保護者との連携を日常的に行い、情報共有の質を高めている。 ・関係機関との連携を継続的に行い、こどもの状況把握や支援方針の統一務役立てている。 ・安全管理マニュアルやBCPに基づく訓練を定期的に行い、事故防止・緊急対応の精度を高めている。	・職員間の共通理解をより深めるため、ケース会議やミニ研修を定期的実施する体制を整える。 ・支援計画書の共有方法を見直し、全職員が同じ視点で支援に臨める情報共有の仕組みを強化する。 ・新任・非常勤職員も含めた安全管理研修の機会を増やし、組織全体の対応力を底上げする。
2	・地域連携や情報発信の積極性	・自立支援協議会、学校、など積極的に連携し、こどもの支援に必要な情報を共有している。 ・SNSを活用し、活動内容を行事予定を定期的に発信している。 - 地域のこどもとの交流機会を設け、社会性の育成につなげている。	・地域資源との連携をさらに広げ、こどもが地域で活躍できる機会を増やす。 ・情報発信の内容を見直し、保護者がより理解しやすい形での発信方法を検討する。 ・外部機関との合同研修や事例検討の機会を増やし、支援の質向上につなげる。
3	・活動プログラムの工夫と柔軟な支援	・活動プログラムが固定化しないよう、こどもの興味に合わせた内容を取り入れている。 - 個別活動と集団活動を組み合わせ、こどもの状態に応じた柔軟な支援を行っている。	・活動プログラムの立案を特定の職員に偏らせず、チーム全体で検討する体制を整える。 ・活動内容と支援計画の関連性を明確にし、目的に沿った活動が実施できるよう改善する。 ・活動環境の整理整頓を進め、こどもが安心して取り組める空間づくりを強化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・個別支援計画書の作成・共有が遅れている	・個別。支援計画書作成の業務量が多く、担当者の負担が大きい。 ・職員間の情報共有の仕組みが十分に整っていない。	・計画書作成の業務フローを見直し、担当者の負担を分散する。 ・職員間の共通理解を府負けるため、ケース会議やミニ研修を定期化する。
2	・活動空間の整理整頓・環境整備	・物品管理や環境整備のルールが曖昧で、整理整頓が後回しになりやすい。	・物品管理ルールの明確化と、定期的な整理整頓の実施。
3	・研修機会の確保が難しい	・研修時間を確保できる勤務体制になっていない。	・研修時間を勤務時間内で確保できるよう、シフト調整や業務分担を見直す。